（一社）たまご村 [岩手県陸前高田市]

「共に叶える、暮らし方。働き方。」をコンセプトにした新しい商店街の基盤構築事業

取組背景・地域課題

- 陸前高田市は、東日本大震災において津波による甚大な被害を受けた。復興に向け、嵩上げや公共施設等のハード復旧は進んでいるが、**少子高齢化と人口減少により過疎化が加速度的に進行**している。
- 今後さらに地域課題は深刻化・多様化し、団体等が単独で取り組むことへの限界が目に見えている。地域の持続・発展のためには**所属や分野を超えて連携することが不可欠**である。
- たまご村は、仮設商店街の払い下げを受け設立。**「共に叶える、暮らし方。働き方。」をビジョン**とし課題の解決に向け活動している。

取組体制

たまご村 ⇔ 連携先
- （株）高田松原
- 陸前高田市
- 経産省東北経済産業局

⇕

支援者
- （一社）トナリノ
- （株）日本総合研究所

取組の目的と内容

「コミュニティ」「視察受入」「情報発信」の3事業を軸とし、中長期計画の策定や体制の構築、事業の準備と実証を通じ、「共に叶える、暮らし方。働き方。」の実現に向けた基盤を構築する

1 中長期計画の策定

- 関係者へのヒアリング等を行いながら、中長期計画の素案を策定。
- 外部公開のうえ意見を収集して、ブラッシュアップ。併せて次年度以降の活動財源獲得にも取り組む。

2 体制の構築（理事会、事務局、関係者）

- 理事会、寄合（商店街入居者会議）、関係者との意見交換などを重ねて、今後の取組体制の設計、合意形成を実施。たまご村の活動基盤の構築につなげる。

3 事業の準備と実証（視察受入と村民制度）

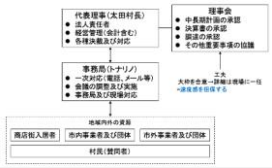
- 視察受入と村民制度（地域内外の人々がたまご村に関わる仕組み）を軸に、企画・設計と実証を通じてブラッシュアップを実施。
- 次年度以降の本格稼働に向け準備。

取組のポイント

～たまご村の全景～

資源と強みを活かした中長期計画の策定！

- 前身の高田大隅つどいの丘商店街からの資源と強みを活かした中長期計画の策定ができた。
- 特に大規模仮設商店街を個人で払い下げを受けたことを、強みとして活かすこととした。
- 入居者との物理的な関係の近さを活かした連携事業を生み出すことをテーマとした。



～たまご村の体制図～

理事会、事務局、関係者の整理と定義を実施！

- 理事会、事務局、関係者の役割と関係を整理し、それぞれに定義を行なった。
- 品質の向上と定着化をはかるため、毎月定期的に会議を開催し、適時見直しをはかった。
- 権限を切り分けることで、代表者の負担軽減と対応速度向上をはかることができた。

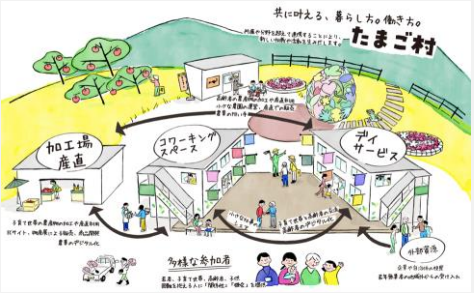
～コミュニティの様子～

たまご村の核となる事業の設定！

- 「大規模仮設商店街」「被災地での挑戦」を強みとした視察受入を第一の核として設定。
- ブラッシュアップ会を受け、「村民制度」から「コミュニティ」へ優先度を変更、より実現性の高い事業の設定ができた。

取組の主な成果

- 「ビジョンを達成するための中長期計画の策定」ができた。**対話を通し、それぞれの主体・関係者意識の醸成**ができた。
- 「中長期計画を実現するための体制づくり」ができた。**代表者の負担軽減と入居者連携の促進**が進んだ。
- 「商店街の基盤となる**コア事業**の準備及び実証」については、一定の見直しをはかり、**「コミュニティ」「視察受入」とする**ことができた。見直しは代表者と理事が対話を通して結論づけたことであり、これまでの運営ではできなかったことであったため、大きな一歩である。



～たまご村のビジョンイメージ～

支援対象団体担当者からの声

> 中長期計画の作成を理事や関係者との協議を通して進められたことで、目標と取組、そして体制の整理が実現できたことは大きな成果であった。当初予定をしていた「村民会議」は見直しとなったものの、取組の優先・実現度を検討した結果であったため、良い判断ができたと感じている。検討過程で「コミュニティ」の優先・実現度が高いことが分かったことも重要な成果である。「視察受入」には専門家の指導や助言を通して、イメージを一定掴むことができた。本支援を受けたことで、次年度以降は法人目的に沿いながら自立・持続的な活動を、理事と関係者と共に進めていく自信と手応えを感じている。